

令和4年度 自己評価計画書

1 教育活動

石川県立医王特別支援学校

重点目標	具体的取組	主担当	実現状況の達成度判断基準	集計結果	判定基準	備考
(1) 生きる力の育成	① 主体的・対話的で深い学びの充実	小中高	授業に自ら取り組み、授業内容を理解できたとする児童生徒の割合は A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満	中学部 AB組 1名 A:1名 B:0名 C:0名 D:0名 Aで100%	C、Dの場合は工夫改善を図る。	結果：A 成果や課題：生徒は前向きに授業に取り組み、学習空白を埋め、授業内容を理解している様子が見られた。引き続き前向きに取り組めるように主体的・対話的で深い学びを意識した授業の工夫に取り組んでいく必要がある。 今後に向けて：引き続き、生徒の実態に応じた教材研究や支援を行い、授業改善を図っていく。
		病棟訪問教育	ICT機器を活用した教材の工夫と充実とコミュニケーションに配慮した指導・支援を行い、指導・支援の改善が見られたと考える教員の割合が A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満	病棟訪問教育担当教員 11名 指導・支援の改善が見られた：11名 100% 見られなかった0名	C、Dの場合は工夫改善を図る。	結果：A 成果や課題：微細な反応の読み取りに努め、意味づけしながら関わることでコミュニケーションの基礎となる力を育むよう取り組んでいる。様々なスイッチやアプリを使いICT機器を活用し、因果関係の理解を深められるよう指導・支援の改善を図っている。 今後に向けて：コロナ禍のため病棟ごとに授業者が固定されているので、日頃から児童生徒の情報共有を行いながら事例検討会等を通して指導の改善を図っていく。
(2) 教員の専門性の向上及び働き方の工夫	① 授業力向上・教材・教具の工夫と効果的な活用	教務課	ICT機器を始めとした教材・教具等を活用して授業を行い、授業目標の達成につながることができた教員の割合が A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満	授業目標の達成につながることができた：11名 100% 見られなかった0名	C、Dの場合は工夫改善を図る。	結果：A 成果や課題：病棟訪問教育では、自作した教材やいろいろな映像などを共有ドライブに入れて、他の教員が児童生徒のために使えるようにしている。教材を共有し、保存しておくことで、児童生徒の授業の充実につながっている。 今後に向けて：今後も、共有できる教材があれば共有ドライブに入れて、教材を充実させていく。
		教務課	病種理解のための校内研修会を受け、児童生徒への対応や指導に活かすことができた教員の割合が A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満	指導に活かすことができた：12名 100% 見られなかった0名	C、Dの場合は工夫改善を図る。	結果：A 成果や課題：第1回公開校内研修会や事例検討会等を受けて児童生徒への対応や指導に活かすことができた。内容の一層の充実を図ることが必要である。 今後に向けて：教職員の児童生徒の対応や指導に関するニーズの把握に努め、第2回公開校内研修会や事例検討会などの充実を図る。
		教頭	定時退校日には定時に退校できるよう勤務時間を意識した校務処理を行うことができたとする教員の割合が A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満	業務改善や勤務時間を意識した校務処理ができた：11名 (91%) できなかった：1名 (9%)	C、Dの場合は工夫改善を図る。	結果：A 成果や課題：定時退校日の予告等を通して、殆どの教員が定時に退校できた。アプリの活用を通してアンケート集約等の業務の円滑化ができつつある。 今後に向けて：定時退校日設定の工夫や業務効率を上げる方法等に関する効果的な方法について共通理解を図り進めていく。

(3)	安心安全な学校作り	①	コロナ対応を含めた学校行事の柔軟な企画・運営	指導課 小中高 病棟訪問教育	学校行事や学部行事について、病院と連携しながらコロナ対応を含めた安心安全な方法について検討・企画し、実施内容に満足できたと感じた保護者・教員の割合が A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満	できた：12名 (100%) できなかった：0名 (0%)	C、Dの場合は工夫改善を図る。	結果：A 成果や課題：コロナ禍での行事の企画・運営も3年目となり、教員側にはその方法が浸透してきているが、今年度は保護者にも行事の内容等について評価してもらい、概ね満足という結果であった。 今後に向けて：行事に関する保護者の要望を聞き取りながら実現可能な方法を病院と共に探り、安全な行事の遂行に向けて病院や保護者に丁寧に説明しながら進める。
		②	安全防災対策の充実	指導課	安全防災に関する授業や研修等を受け、訓練において実際に判断し行動できると考えた児童生徒・教職員の割合が A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満	訓練や研修会実施後の年度末にまとめを行う	C、Dの場合は工夫改善を図る。	
(4)	保護者、病院、地域との連携	①	教育活動への理解のための広報活動の推進	総務課	学校だよりやホームページ、メール配信等により、学校における新しい情報や有用な情報を得ることができたという回答した保護者の割合が A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満	情報を得ることができた： A:8人(80%) B:2人(20%) C:0人 D:0人 AB評価で100%	C、Dの場合は工夫改善を図る。	結果：A 成果や課題：保護者向けの一斉配信メールの整備により、緊急や重要なお知らせは迅速かつ確実に保護者に伝えられるようになり、学校だよりの情報はほぼ確実に伝わっていると思われる。 今後に向けて：広報活動の推進は進みつつあるが、内容の充実と啓発を継続し、現状の維持・向上を図る。また、ホームページについても行事の迅速な掲載に努める。

2 センターの機能

重点目標	具体的取組	主担当	実現状況の達成度判断基準		判定基準	備考		
(1)	小中高等学校・特別支援学校・関係機関との連携	①	教育機関・他機関との連携	コーディネーター、専門相談員	電話やメール等で連絡を取り合う機会が各学校 A：3回以上あった B：2回あった C：1回あった D：なかった	専門相談員の回答 C:1回あった	C、Dの場合は、工夫改善を図る。	結果：C 成果や課題：1学期中に県内小中学校病弱・身体虚弱特別支援学級担当者に電話連絡をし、学校によっては2回以上連絡を取り合うこともあった。金沢大学附属病院の院内学級とはオンライン会議で情報交換等を行った。また、今年度初めて来年度就学予定の保護者に対して病棟訪問教育説明会を開催することができた。 今後に向けて：2学期以降も電話等で連絡を取り合い、相談・連携しやすい状況作り等の工夫を行っていく。
		②	小中高等学校・特別支援学校等への情報提供	教務課	講演会・研修会の内容が参考になったと回答した外部参加者の割合が A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満	外部参加者回答 4名 A:3名(75%) B:1名(25%) C:0名 D:0名 AB評価で100%	C、Dの場合は、工夫改善を図る。	結果：A 成果や課題：第1回公開校内研修会で「ICTを活用した病弱児への効果的な支援について」をテーマに外部講師による講演会を実施し、参加者の評価は概ね好評であった。 今後に向けて：11月に予定している第2回公開校内研修会では参加者の要望等に応えられるように講師と打ち合わせを行い、よりよい研修会を企画し運営していく。
(2)	前籍校・病院等との連携	①	児童生徒に即した支援の充実	小中高	前籍校や病院等と連携し、個々に合わせた支援を行うことができた教員の割合が A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満	中学部 AB 担任 1名 A:できた 1名	C、Dの場合は、工夫改善を図る。	結果：A 成果や課題：前籍校や病院等と話し合いを持ち、個々の課題に応じた支援を行うことができた。引継ぎの際には病院も交え指導・支援についてより具体的なことまで引継ぎしていく必要がある。 今後に向けて：児童生徒の実態に応じて、前籍校や病院、保護者と連携方法を工夫しながら支援を行っていく。

